

国際交流センター

NEWSLETTER

Mar. 2020 Vol. 58

グローバル女性人材養成プログラム(タイ)参加者の感想

2020年2月23日(日)~3月8日(日)の15日間の日程で、グローバル女性人材養成プログラムの研修が行われました。13名の学生が研修に参加し、タイのチェンマイ大学(本学協定大学) Language Instituteで英語の授業を受けました。新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していたインターンシップは中止になりましたが、キックボクシングやタイの伝統的なダンス体験などタイの文化について知る機会を得ました。研修に参加した学生の感想を紹介します。

参加した目的は?

他国の文化や生活の様子、発展具合を見て、**自分が将来世界にむけてどのようなことができるのかを考えるきっかけになれば**と思い参加しました。

海外に行くことができる上に**インターンシップができることを魅力的に感じ**、参加しようと決めました。



英語の能力を高め、異文化を知るため。

日本とは違う環境で過ごしたり、自然に触れたりすることで、教室で学ぶのとは違って肌で感じるができると思っていました。大げさに言えば、**世界観の変わるような経験をしたい**と考えていました。

英語の授業について

プレゼンテーションの授業では難しい題でプレゼンテーションを作らなければならなかったが、**イントロダクション、ボディ、コンクルージョンに分けてプレゼンテーションの作り方を学び**、先生が添削もしてくれたので良かった。

大学やこれまで小中高で受けてきた授業と比べて、ネイティブスピーカーの授業は**型にとらわれずとてもフランクで楽しかった**です。

英語でプレゼンテーションを行う授業では、**語句や慣用句だけでなく、観衆の注目を引きつける方法や発表の流れを分かりやすく示す方法**なども学んだ。

より効果的なスピーチの作り方を学ぶことができた。また、授業を通して、**文法の正しさより、積極的に英語を話すことの方が大切である**ということ強く感じたと共に、自らの英語力の低さや語彙の無さを痛感した。



語学力の変化は?

今回の経験で**自分は英語ができる、話せる、と自信をもてるよう**になりました。

すべての指示が英語でしたので、ちゃんと理解できているか不安になることはよくありましたが、それは自分の言葉で聞き返すことで内容を確認したり理解があっているか尋ねたりして確かめられたし、それによってさらに英語を話せるようになりました。**英語でコミュニケーションをとることに抵抗がなくなったような気がします。**

日が経つにつれて相手の言っていることが聞き取れることが増え、**リスニング力が特に上がった**ように感じた。

Inside This Issue



グローバル女性人材養成プログラム(タイ)参加者の感想



2019年度 大学院生の国際学会での発表



Events at CotoQue



留学生対象 神戸日帰り研修

文化体験やフィールドトリップについて



特に印象的なのはエレファントキャンプです。動物園でしか見たことがないようなソウと、**触れ合っている人々がいることを知りました。**ソウの世話をする体験は一生であるかないかのことだと思うので、そんな体験ができたことがとてもうれしいです。



竹でうちわを作る体験が、一番**ローカルな場所で現地の方と交流しつつできたもの**だったので特によかったです。

現地の歴史や文化を学び、日本には無い芸術作品や習慣に感動や衝撃を受けた。研修の中で現地の人だけでなく、現地の文化にも触れられる体験をできたので**他の国への関心も高まったし、日本人として自国の文化をきちんと学ぶべきだと感じた。**



ツアーなどでたくさんの寺院をまわり、寺院のなかに入ったときには、**いかに寺院が現地の人に大切にされているかを知ることができました。**

特に良かったのは、象に乗ったこととキックボクシングをしたこと。しかし、**どの体験もチェンマイらしいことができたのでとても満足している。**

新たに学んだこと・成長したと感ずること

異文化の中にも日本企業の進出が進み、タイの風土等に合わせて柔軟に形を変えていることが様々な場面で感じ取ることができた。テレビCMや店に陳列された商品、走っている車などを実際に目にして、日本の進出率の高さに驚かされた。**日本を改めて外側から見た経験は今後の学修や就職活動などに生きてくるのではないかなと思う。**



このプログラムに参加する前は英語は就職の時に必要で、TOEICの点で高い点数を取らなければいけないと思い、英語を勉強することが嫌になっていたが、就職のためではなく、**英語でコミュニケーションを取りたいと思い、今は英語の学習意欲が高くなっている。**

研修を終えて、できないと思っていたことでもやってみると面白くてハマってしまうものだと知ることができ、自信につながったという点で私は成長できたと感じています。これからの生活においても**知らないことに対して貪欲に挑戦していくような人間になりたい**と思える研修でした。

タイは、日本に比べ、市民の環境問題への関心が高いと感じた。確かに、大気環境は良くないと思ったが、**日常の暮らしのなかに、環境への配慮を感じる事が多々あった。**例えば、コンビニやスーパーにおけるレジ袋の提供の廃止や紙ストローの利用、ゴミ箱の分別（一般ゴミとリサイクル可能なゴミの2つ）などがある。日本でも、環境問題について話題に挙がることはあるが、日常の私たちの生活が環境に配慮したものへと移行しているとは正直あまり感じないため、タイと日本の違いに驚くと共に、日本の今後の課題であると思った。



便利さばかりを求めず、仏教や文化を重んじることで他者を大切にする慣習があると感じた。今回の研修で語学力だけでなく、社会問題に対する関心も高まった。様々な人と交流し、社会問題について考えていきたい。



チェンマイでの生活や現地の方々との交流を通して、タイにはゆったりとした時間が流れているな、と感じました。気候のおかげもあって**みんな陽気で明るく、自由に暮らしているように感じました。**たとえばお店ではお店の人がいなかったり、みんな暇だとスマホをいじっていたりご飯を食べていたりして、いい意味で日本ほどきっちりした働き方ではありませんでした。わたしはそこに好感が持てました。またコロナウイルスで話題になっているわたしたち日本人に対しても、拒否することなく寛容に迎え入れてくれました。とてもあたたかさを感じました。

研修前に比べて視野が広がり、**何事にもチャレンジしてみようという精神が身についたように感じる。**これからも海外に足を運べる機会があれば、積極的に参加していきたい。

2019年度 大学院生の国際学会での発表

国際交流センターは、奈良女子大学大学院で学ぶ正規学生が海外で開催される国際学会で発表する場合、航空運賃を支援する事業を行っています。2019年度は5名の学生が国際学会で発表しました。その感想を紹介します。

8th Congress of European Microbiologists (FEMS2019)

望月 美奈子 (大学院人間文化研究科博士前期課程食物栄養学専攻 2回生)

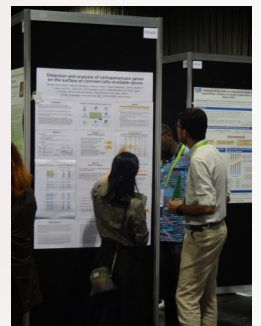
私は、スコットランドのグラスゴーで開催された8th Congress of European Microbiologists (FEMS2019)に参加しました。これは、2年に一度開かれる、Federation of European Microbiological Societiesが主催する学会であり、世界中の微生物学者が参加する有名な学会です。

この学会の主な議題は、微生物に関連する話題の中でも、マイクロバイオーーム、遺伝子発現制御、遺伝子水平伝播や抗生物質耐性、食品微生物学や環境微生物学など多岐にわたりました。特に、私の研究テーマに関連する抗生物質耐性に関するシンポジウムや発表が数多く行われており、その注目度の高さを肌で感じました。また、一つの議題に対しても幅広い観点からの研究や議論があり、新しい研究の視点や知識を得ることができました。

ポスター発表時には、微生物を扱う学会ならではのともいえる、発酵食品のワインやチーズを使った軽食が振舞われていました。また、多くの女性研究者が参加していることに驚きました。ワインを片手に性別も国籍も分け隔てなく活発に議論が交わされている、国際学会ならではの活気ある雰囲気が印象的でした。

私はこの学会で、「市販香辛料中の抗生物質耐性遺伝子の検出と解析」というテーマでポスター発表を行いました。非常に多くの方々に興味を持っていただき、様々な国の方と交流することができました。その中でも英語での議論はとても大変で、自分の技量不足を痛感することも多くありましたが、これから国際社会で活躍するために必要なスキルなどを改めて考える機会となりました。

今回の学会における世界中の研究者との交流は、私にとって大きな刺激となり、大変貴重な経験であったと感じています。最後になりますが、この度の国際学術奨励事業でのご援助に心より感謝申し上げます。



ポスター発表にて
質問に訪れた研究者と
議論をしている様子

Asian Congress of Nutrition 2019

齋藤 公美子 (大学院人間文化研究科博士前期課程食物栄養学専攻 2回生)

この度、国際学術奨励事業の支援を受け、2019年8月3日から7日にインドネシアのバリで開催されました“Asian Congress of Nutrition 2019”（通称ACN）に参加し、研究発表を行いました。ACNはアジア諸国および世界中の食品および栄養の研究者、学界、専門家の間の科学的交流を促進することを目的とし、4年に1回開催される国際会議です。16の基調講演、160のシンポジウム、約1,400の一般演題発表、ウェルカムディナーなど豊富なプログラムを通して、自身の研究分野に関連する食品の研究や、広範な栄養に関する最先端の情報を得ることができ、今後の実験に対する大きな資産を得ることができました。

今回私は、“Effect of water temperature on gluten-free rice flour bread baking”という題目で口頭発表を行い、澱粉の糊化を利用したグルテンフリー米粉パン調製における製パン条件の検討について報告しました。私が発表した

セッションには、私の他にも何人かの学生が発表しており、会場の雰囲気は非常に和やかで開かれた印象を受けました。そのため、私のような若手の学生達でも、緊張せず自由に発表ができ、栄養学の世界の優秀な研究者、教授、指導者と会って言葉を交わすことのできる場であると感じました。自身の質疑応答では、英語での対応が非常に困難でしたが、どの国の方も根気良く私の説明を聞いてくださいました。発表後には、ご質問いただいた研究者と直接意見を交換する機会を持つことができ、実験方法について良いアドバイスを頂くことができました。しかし、やはり英語での聴講は内容を理解することが難しく、スムーズに自分の研究を解説するためには、英語力の向上が必要であることを再確認する機会になりました。今後は、この経験を生かして研究を進めると共に、よりよい研究発表と深く議論し合うための英語力の向上にも努めていきたいと思っております。最後になりましたが、今回の学会参加にあたり、手厚い支援をして頂いた国際学術交流奨励事業関係者の皆様、国際学会での研究発表の機会を与えてくださり、サポートしてくださった高村仁知先生、共に研究に勤しんだ研究室の仲間へ、心より御礼申し上げます。



発表の様子

Experimental Biology 2019

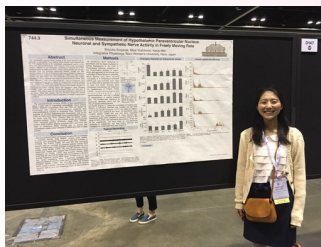
池亀 静香 (大学院人間文化研究科博士後期課程共生自然科学専攻 2回生)

2019年4月6日から9日にかけてアメリカ合衆国オーランドで開催された Experimental Biology 2019に参加した。Experimental Biology 2019 は、解剖学、分子生物学、病理学、薬理学と生理学の5つの学会の年次総会である。世界65ヶ国から1万2000人以上の研究者が参加し5000以上のポスター発表が行われた。

私は生理学部門のCentral Regulation of Autonomic Control: Hypothalamusというセッションでポスター発表を行った。題目は“Simultaneous Measurement of Hypothalamic Paraventricular Nucleus Neuronal and Sympathetic Nerve Activity in Freely Moving Rats”で、自由行動下のラットにおいて室傍核神経活動と交感神経活動の同時測定に成功したことを報告し、室傍核神経活動が非常に低い周波数帯で交感神経活動と心血管機能に位相性の影響を与えている可能性を示した。



Experimental Biology 2019が行われたオレンジコンベンションセンター



ポスターの前で記念撮影

ポスターには20名以上の方が足を止めて下さり、そのうち15名の方から質問をいただいた。日本では交感神経活動の測定を行っている研究室がほとんどないため、同分野の研究者から私の実験に期待することや今後のアドバイスをいただけて、これからの研究について考えるよい機会となった。また、自分の研究を様々な国の研究者から褒めていただき、自分の研究の必要性を感じることができた。ポスターに来て下さった方に名刺を配ったり、先生から知り合いの研究者の方を紹介していただいたりして、ネットワークが広がったことも大きな成果であった。市バスやUberの使用、買い物などを通して、日常的な英会話も経験した。今後留学する際の疑似体験になり、大変有意義な7日間であった。

The 16th International Pragmatics Conference of the International Pragmatics Association

平尾 恵美 (大学院人間文化研究科博士後期課程比較文化学専攻 3回生)

2019年6月9日から14日の6日間、16th International Pragmatics Conferenceに参加しました。これはIPrA(国際語用論学会)が隔年で開催する、当該領域最大の国際大会です。16回目の今回は、香港理工大学を会場に約940名が集まりました。

語用論は、ことばとその使用や文脈との関係を扱う言語学の1領域です。私はinsubordination(一見従属節のようだが、単独で用いられて慣習的に主節のように機能するもの)を、主に語用論的な観点から研究しています。特に日英語の感情表出機能を持つ表現に着目しており、本大会ではThe 'If + Not [P]' Construction as Expressive Insubordination: Its Forming Conditions and Conventionalityという題で、先行研究では十分に議論されてこなかったIf + not [P] 構文(例: [街で偶然ジムに会って]Well, if it isn't Jim!「おや、ジムじゃないか!」)に関する口頭発表を行いました。具体的には、当該構文が成立するには形式・命題の意味内容・機能に関する3つの条件全てを満たす必要があること、それらの条件は互いに関係しあっていること、当該構文はinsubordinationの中でも比較的高い慣習性を持つことを、実例やテスト結果を証拠に主張しました。早朝のセッションにも関わらず沢山の方に興味を持って聞いてもらうことができ、質疑応答も時間が足りなくなるほど盛り上がり、実りの多い発表となりました。会期を通して世界中の研究者と交流できたことも大きな収穫です。また幸いにもデモの影響を受けずに済み、楽しく充実した時間を過ごすことができました。



発表を聞いていただいた
Lehigh大学のKiri Lee先生(奈良女OG)

大学院在学中に国際学会で発表するという予てからの目標の1つを達成し、成功裏に終わることができて一安心しています。何より「世界」を身近に感じられるようになりました。今大会で得た経験と繋がりを大切にしつつ、次の目標に向かって進んでいきます。



発表(質疑応答)の様子

Experimental Biology 2019

山内 優歩 (大学院人間文化研究科博士前期課程心身健康学専攻 2回生)

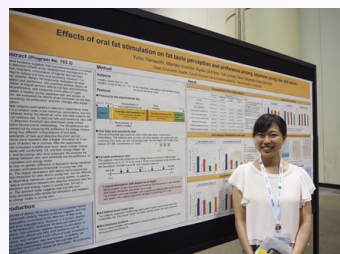


学会会場の外観

2019年4月6日から9日の間、国際交流センターの助成を頂き、アメリカのオーランドで開催された Experimental Biology 2019に参加しました。本学会はライフサイエンスに関する5つの学会である米国生理学会、解剖学会、生化学会、分子生物学会、薬理学会の合同年次総会で、世界中から約12,000名の研究者が参加する全米最大の学術総会です。私は生理学分野で、“Effects of oral fat stimulation on fat taste perception and preference among Japanese young men and women” という題目でポスター発表を行いました。本研究では「脂肪の味」に対する感受性が嗜好や脂質摂取量に与える影響についてや、口腔

への刺激・性差・女性の月経周期によって脂肪味感受性がどのように変化するかについて検討しました。

本学会に参加することで、国内学会では限られがちな私が行っている研究と密接に関連している最先端の研究を聞くことができ、とても勉強になりました。また、海外の研究者とディスカッションをすることで、自分が行ってきた研究を人に伝える楽しさを感じることができ、大変貴重な経験となりました。



発表の様子

Events at CotoQue

2020年1月～3月の期間、CotoQueで様々なイベントが行われました。



1月9日に開催の「お正月！みんなでカルタ大会！」では、カルタだけでなく、日本の伝統的なお正月の遊びである「福笑い」を楽しみました。



1月15日に行った「CotoQue学生スタッフ交流会」では、現在のスタッフだけでなく、これからスタッフになりたいと希望する学生も参加しました。ランチをしながら、各々の興味があることを今後のイベントにどのように活かすか話し合いました。



中国のお正月である春節が1月25日だったため、1月20日～24日は「旧正月お祝いweek」とし、中国にまつわるイベントを開催しました。中国茶会では、中国出身の留学生が先生になり、おいしい中国茶の淹れ方や茶葉の種類について教えてくれました。また、「旧正月お祝いweek」期間中は、イベント開催時以外も中国語の動画を流して、中国文化に触れる機会を設けました。



CotoQueでは、様々な外国語のフリートークも不定期で行っています。留学生が言葉を教えてくれたり、みんなで発音を練習したり、「楽しく！」をモットーに、喋れる人も喋れない人も気軽に参加しています。



2020年1月～3月のCotoQueイベント

	1/9	お正月！みんなでカルタ大会
	1/14	コリア文化に親しもう！～チェミ～③
	1/15	CotoQue学生スタッフ交流会
	1/20～1/24	～旧正月お祝いweek～
	1/21	中国茶会
	1/22	中国語フリートーク
	1/23	Cinema de China
	1/30	スゴクすごろく！すごろく大会
	2/4	フランス語フリートーク



要らないお茶やお菓子
ありませんか？

CotoQueイベントの際に
使いますので、家に要らない
お茶やお菓子があれば、
国際交流センターへ
ご連絡ください。
賞味期限の確認は
お願いいたします。

2020年1月16日(木)実施

留学生対象 神戸日帰り研修



「留学生地域貢献プロジェクト」が行われ、16名の留学生在が参加しました。阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」、「竹中大工道具館」を訪問しました。「人と防災未来センター」では、阪神・淡路大震災の映像や展示を見学し、「語り部」による震災時の体験談を聞くことができました。伝統的な日本建築で建てられた博物館「竹中大工道具館」では、日本の昔の大工道具や使い方の展示や美しい日本建築の模型などを見学しました。参加した留学生の感想を一部紹介します。



一番印象的なのは阪神淡路大震災の見学です。今まで、地震の経験がない私にとって、地震のビデオを見た時本当にびっくりしました。幸せな町が数秒の間に灰になってしまいました。この地震で数多くの被災者がいると知っていますが、今日いろんな写真を見てやっぱり胸が締め付けられるような感じがあります。そして、地震の後、全国が神戸を支援して、被害にあった人々を支えて、本当に感動されました。また、いま、我々が平和・安全の生活を送るってということもしみじみ感じられました。だから、これからは感謝の気持ちを持って前へ進んでいきたいです。

阪神淡路大震災記念-人と防災未来センターでの見学がとても勉強になりました。面白いことに、私の国アルゼンチンでは1944年に大きい地震があったと初めて分かりました。南京町は楽しかったです。見るものが多すぎて時間が足りなかったので友達と今度又行く約束をしました。竹中大工道具館は本当に行行って良かったと思いました。大工さんのお仕事の風景、道具の使い方などが見られる、凄くいい木材の二オイのするところですよ。

1月16日の研修旅行に参加して本当によかったと思います。すごい印象に残っていて充実した1日でした。

まず、阪神淡路大震災の映像を見て思わず戦慄を覚え泣き出しそうな気分になりました。何も言えないほど辛かったです。自然は人間生活を豊かにする力を持つ一方、容易く全てを破壊する力もある。だからこそ、人間は自然との関係をもっと大切にする必要があると考えました。見学を通して地震や自然に関わる知識を増やして印象的なものがいっぱい色々勉強になりました。

そして、南京町まで連れていただき、本当にありがとうございました。そこはまだ行ったことがないのでワクワクしました。要するに、南京町での食べ歩きはとても良い体験でした。特に食べ物美味しく店員さんたちの親切な対応に驚き楽しかったです。また、久しぶりに中国語を見て懐かしいなあと感じました。

それから、大工博物館にも勉強になるものがたくさんあると思います。大工や木などにあまり詳しくないとしても、わかりやすい説明を読んでいたらすぐ理解できるようになりました。そして、道具が本当にかっこいいなあと思嘆することは何回もありました。しかし何より印象に残って一番好きなのは、やはり当館における木の匂いだと思います。心地よく午後の時間を過ごしました。



今日一日神戸ですごく楽しかったです。朝に人と防災未来センターで、地震を経験したおばあさまの話や、当時の映像など、自然災害の前に人はそんなに小さくて、無力感がわかったが、人々の間にはお互い支える力の大きさも感じました。そして、いろいろな地震のこと、防災知識も勉強になりました。

午後に竹中大工道具館を見学しました。大工道具の歴史、種類などを勉強し、特に日本の木のことがすごく気になりました。去年の夏に吉野の留学生のツアーに行ったこともあって、もっと奈良吉野山の木の素晴らしさを感じました。ここでは日本全国の木のことも少しだけ触れました。また、館内で木製の階段に上がり下がり、すごく気持ちいい触感が感じました。やはり木は大変素晴らしいですね。

今日行ったところは、留学生としては普段に全然行かないので、誠に感謝しております。また、中華街で久しぶり中華を食べました。あ、故郷の味でした！

今日本当に満喫しました。本当にありがとうございました！

センター及び国際課の活動

- 1/8 グローバル女性人材養成プログラム(タイ第4回)募集説明会
- 1/10 グローバル女性人材養成プログラム
(ニュージーランド第6回)説明会
- 1/16 留学生対象 神戸日帰り研修
- 1/29 グローバル女性人材養成プログラム
(タイ第5回)(ニュージーランド第7回)説明会
- 1/31 グローバル女性人材養成プログラム
(ニュージーランド第8回)説明会
- 2/7 グローバル女性人材養成プログラム
(ニュージーランド第9回)最終説明会
- 2/10 留学生送別会
- 2/12 グローバル女性人材養成プログラム(タイ第6回)最終説明会
TOEFL-ITP実施
- 2/15 グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)出発
- 2/23 グローバル女性人材養成プログラム(タイ)出発
- 3/8 グローバル女性人材養成プログラム(タイ)帰国
- 3/16 グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)帰国
- 3/18 TOEFL-ITP実施



奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.58 2020年3月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp